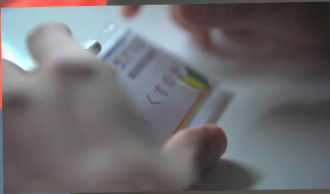


この感情は
言葉に
壊れ
てた
まう

その日暮らしの男たちと 家出をした女子高生の脆くて優しい物語



東京でフリーターをしながら一人暮らしをしているミノル(藤原季節)は、時より遊びに来る友人のタケ(義山真司)と当てもなく淡々とした日々を過ごしていた。実家暮らしでアルバイトもしていないタケは時間を持って余し、居心地の悪さから逃げるようにミノルの家に通っている。いつものようにタケがミノルの家に行くと、そこには家出をした未成年の桜子(鈴木セイナ)がいた。あらぬ疑いをかけられる前に、桜子を家に帰そうと考える二人だったが、ミノルは次第に桜子の境遇に自らを重ねていき、ある作戦を考えるのだが…。行き場のない寂しさと、無責任な優しさが交差する。



真実から切り取った嘘のような本当の話



証賢志、毎熊克哉、佐藤考哲、林知亜季からなるEngawa Films Project (以下、エンガワ)は、2008年の結成以降、数々の短編映画を製作してきた。そんなエンガワと深い交流があった俳優の藤原季節を主演に迎え、初長編作品として製作されたのが本作『東京ランドマーク』だ。藤原とその友人である義山真司の複雑な友情に興味をもった林が、彼らの実体験と関係性からヒントを得て脚本を書き上げた。役を演じることを超えた本人たちの生々しい機微と、オーディションで桜子役を勝ち取った鈴木セイナのフレッシュなエネルギーが化学反応を起こす。

昔学校の授業で『メトロノームの同期現象』という実験をしたことを覚えています。一つの台に置かれた複数のメトロノーム、最初はバラバラに刻んでいたリズムが次第に揃っていき、最後には全てのメトロノームがピッタリと同じリズムに同期同調されるというものです。周波数の共振と共鳴の実験。

この映画はとても衝動的な形で制作に入りました。不安や憤り、思惑や期待、色も形も違う色々な衝動が一つの作品に向けて呼吸が揃い始める感覚、心の周波数、この作品に関わる一人一人があの時のメトロノームの様に、いつの間にか同期し、大きな波長となってこの作品を完成させてくれた気がします。 監督 林知亜季



天草で撮影された映画『のさりの島』主演の藤原季節(本作主演)とNHKドラマ『TRUE COLORS』で松浦晶太郎を演じた毎熊克哉(本作プロデューサー)の2人が参加した『東京ランドマーク』がこうして天草の映画館で上映できることになったこと、天草の皆様にご覧いただける機会をいただき大変光栄です。1週間よろしくお願いたします。

3/8 1週間限定上映 (土) ~ 14 (金)

本渡第一映劇
熊本県天草市栄町5-23
☎0969-23-1417

